滋賀県大津市（国内 66 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの現地調査概要

令和５年１月 26 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

１　農場の周辺環境・農場概況

① 当該農場は山中に位置し、周囲は田畑や林等に囲まれている。
② 当該農場は、開放鳥舎とパドックで構成されており、発生時にはエミューが飼養されていた。卵や生体の出荷はしていない。
③ 約 325m の距離に関連農場があり、開放鶏舎と放牧場で構成されており、発生時には鶏が飼養されていた。生体は出荷していないが、卵は２か所に出荷していた。

２　通報までの経緯

① 農場主によると、通常飼養個体が死亡することはないところ、１月 23 日にパドックで１羽の死亡が認められ、パドックに埋葬したとのこと。
② さらに 25 日にも１羽の死亡が認められたため、家畜保健衛生所に通報をしたとのこと。
③ 調査時、生きた個体に特段の異状は認めなかった。

３　管理人及び従業員

① 農場主によると、当該農場及び関連農場は農場主１名のみで飼養管理を行っており、毎日両農場へ立ち入り、給餌を行っていたとのこと。

４　農場の飼養衛生管理

① 農場主によると、当該農場には専用衣服・靴への更衣場所はなく、出入口付近に車両を駐車し、そのまま農場に入場していたとのこと。（疫学関連農場についても同様）
② 鳥舎出入口にアルコールスプレー等はなく、入場時の手指消毒は行っていなかったとのこと。
③ 給餌は毎朝行っており、市販のトウモロコシ飼料と近隣農家等から無償でもらったくず米及びキャベツを手やりしていたとのこと。
④ 給水設備はバケツが１つあり、山水を与えていたとのこと。調査時はバケツが転がっており、中の水が凍って飲めない状況だったため、エミューはパドックにたまった泥水を飲んでいた。
⑤ 敷料は精米所横で配布されている籾殻を使用しており、直近では２週間前に搬入したとのこと。
⑥ パドックの糞は量が少ないため、除糞作業は実施していなかったとのこと。
⑦ 飼養個体は４年ほど前に導入し、その後自農場で繁殖したものであり、最初の導入後の外部からの導入はなかったとのこと。
⑧ 鳥舎には戸などはついておらず、三方は高さ１m 程度の壁で囲まれており、鳥舎とパ

ドック間は自由に行き来できるようになっていた。パドックの周囲は柵と防鳥ネット（網目５㎝×５㎝）で囲まれていたが、パドック天井に防鳥ネットは設置されていなかった。調査時、半分程度の柵が倒れており、防鳥ネットも穴が開いていた。

５　野鳥・野生動物対策

① 農場主によると、農場周辺で野鳥や野生動物が頻繁に確認されていたとのこと。

② 農場主によると、数日前に鳥舎内で弱ったカラスが発見されたため、鳥舎近くに吊るして野鳥除けにしたとのこと。降雪によりカラスを吊っていた棒が倒れており、調査時にカラスを見つけることはできなかった。

③ 周囲の柵には野鳥の糞とみられるものが付着していた。

（以上）